

理科

➔ 5年生 | 「雲と天気の変化」

運動会の天気を予想しよう

1. はじめに

子どもたちは、学校行事があるたびに天気予報が気になる。理科の学習で天気について学習するときに、子どもたちから「この学習で、天気の予想ができるようになりたい」という話が出た。

そこで、学んだことを自分の生活に生かすというねらいを立て、学習計画を立てた。

2. この単元における具体的な手立て

①体験的な活動場面を取り入れる

- ・気温や降水量を継続的に観察できるように、朝と昼の時間を使って観測させ、その結果を記録する中で、自分の情報として授業に活用できるようにする。
- ・テレビやインターネットを活用して、生活の中から話し合いのための情報が得られるようにする。
- ・意見交換の時間を十分にとり、話し合いを通して一人ひとりが見通しをもって取り組めるようにする。

②体験的な学習や問題解決的な学習を多様に展開する

- ・自分が調べている課題を全員に発表する場を設定する。また途中で友達の意見を参考にするために情報交換をさせ、最終的には根拠をもって天気を予想できるようにする。
- ・新聞、テレビ、衛星放送、インターネットを駆使して観測方法を吟味する。

③自然とのかかわりを考えさせたり、学び方を身につけさせたりする

- ・各種メディアやインターネットを使って各地の観測データや気象情報を入手し、天気予報を行う。
- ・雲画像などのわかりやすい映像を活用して、その規則性を理解できるように指導する。

3. 単元を通しての授業の流れ *簡略化しています。

- ①気温と天気の変化との関連について話し合う。
- ②気温が変化するわけを調べる方法を話し合う。
(予想を立てて自分なりに調べ学習をする。
そして原因や規則性を追究する。)
- ③考えた原因や規則性をもとに、1日の気温の変化を予想する。
- ④曇りや雨の日の気温の変化を考えてみる。
- ⑤規則性がわかったところで、自分で明日の天気の予想を試してみる。
- ⑥今まで学習してきたことを活用して、「運動会の日の天気」を根拠をもって予想する。

4. 学習を通して

子どもたちは、この学習を終えた後、「今日の天気予報」ということで、朝の放送を使って全校児童に天気予報を知らせる活動を行った。一人ひとりが雲画像やアメダス等の見方をわかったうえで、実際に雲などの動きを自分の目で確認するまでに至った。

調べ学習を進めていく中で、他の子どもや教師にアドバイスを受けて知識を習得することができた。

それらの習得した知識を活用して、テレビ等のメディアを使わなくても予報ができるようになったことが、大きな達成感につながったようである。

この実践は、誰にでもできるものである。天気と気温の関係性や知識をしっかりと体得できれば、子どもたちは自主的に学習を進めるようになる。

